International Institute of Multi-Cultural Studies

特定非営利活動法人

国際比較文化研究所

■ Newsletter ■

Vol. 15　No.4　　2015 年　1 月

鷺の宮卓話

教　師　道（みち）

研究所理事長　太田敬雄

1966 年 1 月に私は米国オハイオ州のクリーブランド市の高等学校に新任教師として赴任した。前年の 12 月に大学を終えたばかりの私、不安一杯で赴任したことを思い出す。今月、教師になって 49 年目を迎える。あと一年でついに教師になって 50 年経つ！

そんなことを思いつつ、教師として歩んできた道を振り返って見たい。教師への道の始まりは、父の影響で、母によると 3 歳の頃から「先生になる」と言っていたそうだが、具体的に教師を目指すようになった背景には父の存在のほかに恩師の玉川学園創始者、「玉川のおやじ」コト、小原國芳先生が語り続けた「夢」の影響が大きかった。その夢は、今振り返って見てもとてつもなく大きな夢だったが、二人のおやじから私は学生・生徒への接し方、彼らの受け入れ方、そして彼らを信じることを学んだ。

その後、大勢の方々、の影響や感化を受けてきたが、教師になる以前の影響としては、大学時代の英文学の Eastman 教授から学んだ教師としての学生への責任感が大きな土台となった。ある時、先生は「学ぼうとしている君達の学ぶ権利を守るのが私の務めだ」と Eastman 先生は言われた。感動した。半世紀以上経った今も、先生の言葉は私の頭の中で響き渡っている。

さて、1966 年の 1 月、いざ教壇に立ち、目の前に展開するありとあらゆる生徒たちに触れると、大学の「教育学」で学んだことは、ほとんど役に立たない。瞬間に出てくるのは玉川のおやじの言葉であり、Eastman 先生の言葉だった。

大学に勤め始めてからは、弘前大学でお世話になった芳賀馨先生の指導が大きかった。元々教師にはなりたいと思っていたが、研究者になるつもりは無かった私に研究者の姿勢を教えて下さったのは芳賀先生だった。先生のお陰で、自ら学ぶ努力をしない教師は堕落することを教わった。この歳になってもまだ大学の教壇に立つことを許されているのも、芳賀先生に尻を叩かれつつ研究者としての姿勢と業績を徐々に身に付けていくことが出来たからだと感謝している。

自分で関心を持ったことに対しては夢中で取り組んできた私は研究することは嫌いではなかった。だが、実を言うと私はやみ雲に「勉強する」ことは好きではなかった。いまだに好きではない。言われるままに努力することは大の不得手なことだ。だから、苦手とすることは無くすなどと言う努力は最も嫌なことだった。この不真面目さが今日までの私が歩んだ教師の道を切り開いていったと言えるだろう。

私は、自分が抱える圧倒的な弱みを無くす努力は全くしなかった。むしろ「己の弱点・欠点をどうやって活かしていくか」を考え続けながら、自分らしい教師としての道を考え続けてきた。今、学生たちにもしばしば「自分の弱みを武器に出来る人間になれ」と語るのだが、これはまさに私が生きてきた道に他ならない。今では「人は弱点を無くせたとしたら、その時には表裏一体の長所も無くなってしまったつまらない人間になる」と、確信している。

私は人前で話すことが大の苦手（昔は）だったから講義しない授業を心がけ、講義するのではなく、学生が自ら学びたくなる授業を模索した。思えば玉川学園が目指した「自学自習」の経験の延長上に、私なりの授業を構築してきたのだと思う。

最近では、授業のはじめに宣言するのは「英語はどうせ外国語なんだから、間違えて結構。発音が下手でも構わない。この授業では文法やスペリングのミスで減点はしない。大事なことは伝えるべき何かを持っていること。伝えたいという意思を持っていること。」というような授業説明で始める。そして、こちらからは学生を指さない。常に学生が声を出すことを求める。

受身の教育に慣れ親しんできた学生たちは、聞く姿勢は見事に出来ているが、これは苦手とする学生が多いようだ。

多文化交流の企画・運営を学生に任せるようになって、私が理想としてきた教育の形が見えて来た気がしている。もう単位さえも関係ない。そこで始めて本物の教育が見えて来たと言えよう。

今、私の教育の道の先に大きな光が見えている。

2014 年度第 2 回懇談会

「日本男児、インドネシアで奮闘す」

日本語教師インターンシッププログラム報告会

同封のチラシをご参照下さい。秋のニューズレターで報告してくれた**杉浦翔太氏**が、その体験を語ってくれます。若い学生の皆さんにとっても、また年配の方々にとっても興味深いお話になると思います。

なお、遠方からＪＲで安中までご来場になる方は、前もってご連絡下さい。安中駅から会場までお連れします。信越線は１時間に１本程度しか走っていませんのでご注意を！

国際比較文化研究所創立１５周年記念企画

ぐんまカップ

経過報告

皆さん、クラウドファンディングをご存知ですか？
「クラウドファンディングは、インターネットを介して不特定多数の個人から資金（支援金）を集めるサービスです。新しい資金調達の手段として注目されており、世界中で 500 以上のクラウドファンディングサービスが存在します。
スタッフたちは今、READYFOR（レディーフォー）のクラウドファンディングサービスに登録して「ぐんまカップ」の資金調達のための活動を始めています。READYFOR?は、「2011 年 4 月のオープンから約 1600 プロジェクトの資金調達を行い、これまで日本最大の合計で 6 万 3 千人から約 8 億 4 千万円が支援されています。 」インターネットにアクセスできる読者の皆さんはゼヒともネットで「READYFOR?」を検索し、「群馬発！日本語コンテストを通して国境を越えた関係を築きたい！」と訴えている ぐんまカップ を支援して下さい！

皆様の御協力を得て、インドネシアの学生が日本に行く機会を自分の手で掴むチャンスとなる日本語コンテストをインドネシアで開催。コンテスト入賞者を群馬に招待し、様々な交流プログラムを実施します。

現在のスタッフ一同です。
全員、研究所の学生会員で、群馬県内外の４大学の学生です。
年度を跨いでのプロジェクトになりますので、今も来年度も継続できる新規スタッフを募集しています。

ぐんまカップ実現へ！2014 年 12 月 28 日
ぐんまカップ学生スタッフの梶原拓弥です（^^）ぐんまカップの実現に向けてご支援の募集スタート致しました‼□!□
心と心が通った交流、国境を超えて「また逢いたい」と思える関係、そんな素敵なきっかけ作りをぐんまカップで築き上げていきたいと思っています。みなさんの支援があってぐんまカップは実現します。ぜひご支援よろしくお願いします！
ネットでの操作が苦手な方は、通常の振込用紙によるぐんまカップへのご寄付、あるいは協賛団体も募集しています。

ご質問・ご連絡はぐんまカップ代表の菅谷佳名子までお願いします。kanako.sugaya@gmail.com

恩幣宏美懇談会
「生活を知れば看護が変わる」

2014 年 11 月 22 日　まなぱるＸＤにて実施

感想：有限会社　ゆう優ハウス大和
住宅型有料老人ホームやまと
施設長　**丸山裕太**

今回の懇談会には、父からの紹介で参加させて頂きました。
私は介護の仕事をさせて頂いておりますので、仕事で何か役に立たないか、と思って参加したのですが、私生活の子育てにも通じる多くの学びを頂きました。

大きく「研究」についてのお話と、「子育て」についてお話頂き、
「研究」のお話からは、治療・看護に必要だからといって治療等を行っていっても、患者様自らの行動変容（自主的に食事制限を守るなど）には繋がらないため、
その患者様のこれまでの生活や生き様を知り、折り合いをつけて治療をしていく事が大事、という事を教えて頂きました。

また「子育て」のお話では自らが取り組んでいる「オムツなし育児」について教えてくださり、生後２週間（１４日）の首もすわらない赤ちゃんがオマルでオシッコ出来る、というお話を聴いてとても驚きました。
赤ちゃんから発せられる「おトイレに行きたい！」というサインをなんとなくだけど感じ取り、オムツを外してあげるときちんとオマルでオシッコが出来るそうです。

私は子供がある程度成長し、会話で意思疎通が出来る様になるうちにオムツが外れる、と思っておりましたので、これまで考えもしなかった育児の仕方でした。

赤ちゃんもトイレに行きたいという不快感を感じている、というお話をしている内に、認知症高齢者の方の介護にも通じる部分があるように感じてきました。
高齢者の方でも認知症が進行し、会話での意思疎通が困難な方もいらっしゃいます。
そのような方もなんとなく「トイレかな？」と感じる時は、オムツでなくトイレで排泄が出来ます。
実際に「オムツなし介護」の取り組みをされている所もあるそうです。
私もそういった介護を見習いたいと思いました。

恩幣先生のお話の後に、参加者と先生で懇談の時間を頂きました。
先生のお話について更に質問させて頂いたり、障がいを持つ子供と、健常な子供の姉妹関係で悩むお母さんに、自らの姉が障がいを持っているという参加者の方が実体験でのアドバイスをされたりと、活発なお話が出来ました。
通常の講演会と違い、先生も含め参加者同士でも堅苦しくなく話が出来てとても良かったです。

２０１４年度を締めくくる活動が続きます！
会員の皆様のご参加・御援助を
お願いします

多文化交流 in ぐんま
２月１３日～１５日
於：安中市学習の森
問合せ先：斉木雄作
heart052425@gmail.com

多文化交流 in 静岡
２月１７日～１９日
於：浜松市立青少年の家
問合せ先：鈴木佳乃
hiyokochan0707@docomo.ne.jp

インドネシア招聘プログラム
参加　＋　ホームステイ

杉浦翔太懇談会
「日本男児、インドネシアで奮闘す」
2015 年 1 月 25 日午前 10 時～
於：安中市学習の森
ふるさと学習館

多文化交流 in マラン
3 月 2 日（前泊）～11 日
問合せ先：脇優美
jhm.qmm7@gmail.com

研究所からのご連絡とお願い

1、**研究所ホームページ、Facebook、まなぱるホームページ**は見ていただけましたか？前回もお知らせしましたが、今回さらにクラウドファンディングの READYFOR?にも「ぐんまカップ」が登場しています。ゼヒ一度開いてみて下さい。

2、**振込について：**これまでの会費やご寄付、あるいはぐんまカップ協賛のお振込には、同封の振込用紙をご利用いただけますが、READYFOR?へのご寄付の場合はカードによる振込みになります。目標額が達成された時のみ、カードから申込金額が引き落とされることになっています。目標額を達成できるようにお一人でも多くの方のご賛同・御協力をおねがいします。

3、**会費とご寄附のお願い：**研究所の活動は、基本的に皆様からの会費とご寄附によって支えられています。これまで同様に会費・ご寄附でお支え下さいますようお願いします。会費以外の方も、数年に一度で結構ですから、ニューズレター郵送代のご寄附をお願いできれば幸いです。

会費・寄付（2014 年 10 月 10 日～2014 年 12 月 31 日）敬称略

＜会費＞ 太田知子、久保正直、水木健一、星野富雄、星野敏子。

＜寄付＞

○一般寄附　太田知子、鬼頭孝子、澤崎宏一、野口紀子、村井田和夫、五十嵐典子、恩幣宏美、加納武、池田章二、巣山史枝。

○招聘　太田知子。

○多文化交流 太田知子。

○まなぱる　太田知子、村井田和夫。

○支援金 イエスの友会。

○ぐんまカップ寄付 菅ヶ谷純弘、菅ヶ谷由美子、村井田和夫、野村誠、岸秀樹、成澤希伊子、斎藤宏、阿久津秀人、岡部雄太。

○ぐんまカップ協賛 日進館大野克美、荒井美幸、有限会社石井設備サービス、eneco 株式会社。（他にも協賛して下さる企業が有るのですが、ここには既にご入金いただいている所だけを記させて頂きました。）また協賛につきましては、後日、スタッフより詳しい報告があります。

《編集後記》

☆二年越しのインフルエンザに罹ってしまいました。予防接種を受けていたためでしょうか、幸い高熱などは出ず、恐らく軽く済んだのだろうと思います。それでも辛い年越しとなってしまいました。

そのお陰･･･というのも変ですが･･･今年は実に静かにゆったりとした新年を迎えることが出来ました。その分、今は懇談会に間に合うよう、一日でも発行の遅れを取り戻したいと焦っています！

☆これまで、ヤマトのメール便で会報をお届けしていましたが、今回から郵便局のゆうメールに変更しました。恐らく発送後お手元に届く時間は短縮されると思います。

☆話は変わりますが、少し前から近くの学童保育施設で少しお手伝いさせて頂き始めました。暮れには学童の子ども達のサンタにもなりました。今週は指導員の一人として子ども達をスケートに引率します。それまでに体調が戻っているよう祈っている所です。子ども達の相手をさせて頂いていると、教育の基本に立ち返ることができ、大変有り難い機会を頂いたと喜んでいます。もしも許されるなら、しばらくは学童の場から自分の教育への姿勢を見直していきたいと考えています。

尤も、来年度は日本大学での非常勤も、今年より一コマ増えて、火曜日・水曜日で合わせて 4 コマの授業を担当させて頂くことになります。大学と学童。大変興味深い取り合わせではありますが、研究所の活動も大事ですので、体力と相談しながら考えていくつもりです。

☆2015 年が、皆様にとって良い年となりますように。世界の人々が自我を捨てて平和に目覚める年となりますように。（T）

発行　特定非営利活動法人国際比較文化研究所
事務所：〒379-0124 **群馬県安中市鷺宮** 3413-3
電話：027-382-5998 FAX：027-382-6393
研究所ホームページ：http://www8.wind.ne.jp/mthc
まなぱる：http://manapal.gunmablog.net/e80854.html
郵便振替口座番号：00510-1-61974
加入者名：国際比較文化研究所